

第1回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会 記録

会議名	第1回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会
開催日時	平成30年4月9日（月曜日）午後6時から7時30分まで
開催場所	港区スポーツセンター会議室
委員	小笠原委員長、新宮副委員長 秋吉委員、石黒委員、水上委員、関本委員、横尾委員
事務局	生涯学習スポーツ振興課 木下課長 " スポーツ振興係 加藤係長、大矢、石原
傍聴者	非公開
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 教育委員会事務局教育推進部長のあいさつ 3 委嘱状の交付 4 委員自己紹介 5 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員長の選出 (2) 公募要項（案）について (3) 評価基準（審査票（案））について (4) その他 6 閉 会
配付資料	<p>【席上配布】</p> <p>資料1 港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会設置要綱</p> <p>資料2 選考委員会委員名簿</p> <p>資料3 指定管理者公募要項（案）一式</p> <p>資料4 第一次審査票（案）</p> <p>資料5 第二次審査票（案）</p> <p>参考資料 港区立スポーツ施設パンフレット</p>
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1 開会
部長	・開会の挨拶
事務局	2 教育委員会事務局教育推進部長のあいさつ
事務局	3 委嘱状の交付
事務局	4 委員自己紹介
事務局	・各委員による自己紹介
事務局	5 議題
事務局	(1) 委員長の選出
事務局	・委員から推薦があり、委員長選出、承認
事務局	・副委員長は要綱に基づき、選出、承認

A委員 事務局	(2) 公募要項(案)について ・事務局から公募要項の説明(愛宕弓道場の現状についても説明)
B委員 事務局	12ページで説明いただいた提案事業と自主事業の違いを、もう一度確認したい。提案事業は、事業者から提案していただく事業で、指定管理料の範囲で行っていただく。自主事業は、本業務を妨げない範囲で、自由度の高い事業で、指定管理料とは別の、全額事業者の費用負担と収入で行っていただく。
B委員 事務局	たとえば、自主事業でラグビーやオリパラの話が出てきても大丈夫か。
B委員 事務局	はい。
B委員 事務局	13ページに、「資格を持っている者を配置してください」という表記があるが、体育施設管理士という言葉は入っているか。
B委員 事務局	入っていない。
B委員 事務局	体育施設協会の出している、体育施設を管理する人のための資格になるが、去年、スポーツ庁で出たストック適正化ガイドラインの中で、安全管理のために、たとえば、体育施設管理士を置くことが望ましいという文言が入っている。それに準拠するという考え方だと、区のリスクマネジメントとしても、入っていた方がいい。
A委員 事務局	教育的な意味を込めて、望ましいぐらいに書いておけばいいと思う。必置にすると点数で0点になってしまう。
E委員 事務局	記載する。
E委員 事務局	30ページの提出書類で、㊸の提案・自主事業計画が様式32という1つの様式で、提案も自主事業も一緒にこの1枚の様式に書くようになっている。ラグビーワールドカップや東京2020大会という大事な大会を控えている5年になるので、提案も自主事業も両方ともしっかりご提案をいただいた方がいい。
A委員 事務局	今回は非常に変則的な時期、すなわち特別な行事が入っている5年間である。特にこの2年間、もう来年からなので、結果的にはあと1年というところのプロモーションなども入っていることを考えると、委員がおっしゃったことは重要になる。委員の指摘どおり、提案事業と自主事業は分けて書いてはいかかが。
C委員 事務局	提案事業と自主事業は分けて記載する。
C委員 事務局	次の議題、評価基準のところにも関連してくると思うが、29、30ページについて。前期3年間、後期3年間で大きく変わったところは2点ある。1点目が障害者スポーツを振興していくことで、後期3年間には、数値目標として障害者の週1回以上のスポーツ実施率などが入っている。2点目として、後期の計画では、スポーツ推進計画の45ページに書いてある基本目標8に「東京2020大会等のレガシーの継承・活用」が入っている。なので、審査の基準に気運を高めるということは書いてあるが、今回の指定管理が2019年から5年間で、オリンピック後の施設の管理運営をするということがあるので、レガシーに関するものについても何か考えを示していただくほうがいい。
A委員 事務局	推進計画の何ページ参照と振ってあげるといい。
D委員 事務局	記載する。
D委員 事務局	スポーツ推進計画は、応募する事業者がこれを読んで、理解しないといけない。スポーツ推進計画をどう理解しているか、解釈しているかは、事業者がしっかりと認知しておかなきゃいけない一番の柱になる。
G委員 事務局	21ページの4、運営経費に関する事項で職員人件費というところで、最低賃金的なところは書いているが、実際にどういう形で評定していくのか、資産の審査の部分で入ってくるのか、それとも法人等の団体に関する処遇の中で評定していくのかというあたりがどちらなのかが分からなかった。

事務局	次にご説明する予定の資料4、第一次審査票をご覧いただきたいが、公認会計士による審査として財務状況分析、資金計画分析を載せている。ご指摘のあった部分は、人件費なので収支計画書になると思うが、2の資金計画分析で、まず公認会計士にAからEまでの評価をつけさせていただく。また、資金収支計画が事業計画書と比較して妥当であることという欄を設け、選考委員にもその妥当性を判断していただくことを考えている。
A委員	基本的には、我々が見るのは非常に厳しいため、専門家がきちんと入って、そこはきちんと評価していただき、プラスアルファで我々もそれを見るダブルチェックという形でやらせていただく。
F委員	先ほどからスポーツ推進計画のご意見が出ているが、基本的にこれを全部見ていただくということになるが、やはり全部見るのは難しいと。1つだけ明確に出していただきたいことは、先ほど委員からお話のあったスポーツ実施率について、障害者が45%と43ページに書いてあるが、成人が65%以上で、これを区の目標として掲げていることを公募要項12ページの提案事業のあたりで「区はこういう目標を掲げていますので、これを踏まえて」という一言を入れていただき、そのあたりで認識したものを提案していただきたい。
B委員 事務局	現状の運営実態として、もっと伸びる余地があるという理解でよろしいか。スポーツセンターなどの運動施設の利用者数は増えているが、全体的に週1回以上スポーツを実施しているかという区民向けのアンケートは下がっている。周知やスポーツ施設に足を運んでいただけるようなプログラムを考えていただきたい。
B委員 事務局	現状で稼働率が100%で、もう入れる余地がないということはないか。スポーツセンターは、稼働率が高いが、より魅力のあるプログラムを作ってほしい。午前中枠がどうしても埋まらない状況もある。
A委員	公募要項(案)については、各委員からの意見を反映し、事務局で修正するというのでいいか。 ・全員承認
A委員 事務局	(3) 評価基準(審査票(案))について ・事務局から評価基準の説明
D委員	30番目、見込みを超えた利益の扱いに関する提案というのは、どういうことを想定しているか。
事務局	利用料金収入が見込みより多い場合に、たとえば区に半分納めるという成果配分や区民への還元事業などを見込んでいます。
C委員	3番の職員の確保・育成に対する考え方について、考え方じゃなくて取り組みにした方がいい。職員の方が変わることによって利用者の増減に繋がるので、考え方より実際にどういう取り組みにするかというのを聞いたほうがいい。
事務局 C委員	修正する。 日本体育協会、日本スポーツ協会の資格制度というものが一番大きい資格制度になる。必置ではなくて取り組みの部分に関して、そういう資格取得を推奨するということで、日本スポーツ協会のスポーツ指導者資格というのでも押さえておいたほうがいい。
B委員 事務局	前回どのくらいの応募があったか。
G委員	3事業者の応募があった。 3者ということだが、たとえば、それぞれの様式ごとに一斉に提案書類が出てくる。前回の選定時と同様に、そのダイジェストみたいなものを事務局でまとめることは考えているか。
A委員	事務局の主観が入ってしまうので、直接読んで直接審査させていただく方がいい。

事務局	先ほど公募要項のときに、審査票24番の提案事業と自主事業を分けることになったが、合計点数が200点になるので、今、掛ける2となっている配点を5点ずつにするか、それとも、掛ける2ずつは残して、ほかで調整するか、皆様のお考えをお聞かせいただければ。
E委員	提案事業と自主事業を分けるのであれば、審査も別の項目にした方がいい。
A委員	分けて、5点、5点でどうか。
事務局	はい。
B委員	こういうのはなしという確認だが、たとえば、利用料金を設定されている上限を超えとか、夕方・夜間混むから、そこだけは上げたほうが収支がよくなるという提案だとか、あるいは施設によって利用時間が定められているが、これを広げることで、もっと利用者が拡大できるという提案があった場合は、どのように判断すればいいか。
事務局	利用料金の部分については、条例で定められている上限金額以上というのは求められない。下げる部分については指定管理者側の判断になるので、下げて、もう少し利用者数を増やすということを提案いただくことは可能。
B委員	利用時間も同じような考え方か。スポーツセンターは8時半を1時間か1時間半前倒しすると、いわゆる若い世代と呼ばれている人たちの利用は期待できるという気がする。
事務局	条例上、8時半開館で22時までというのが定められている。しかし、自主事業というのはそこに縛られないで、斬新な考え方も取り入れていきたいというのはある。複合施設は警備の問題とか、いろいろな部分で話し合いは持たなくてはいけないが、利用者数の拡大につながるような事業であれば、しっかりと協議をしていきたい。
A委員	評価基準については、各委員からの意見を反映し、事務局で修正するということがいいか。
A委員	・全員承認
事務局	(4) その他
A委員	・事務局から今後のスケジュールの説明
	6 閉会

第2回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会 記録

会議名	第2回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会
開催日時	平成30年6月18日（月曜日）午後6時から午後8時まで
開催場所	港区役所7階教育委員会室
委員	小笠原委員長、新宮副委員長 秋吉委員、石黒委員、水上委員、関本委員
事務局	生涯学習スポーツ振興課 木下課長 " スポーツ振興係 加藤係長、大矢、石原
傍聴者	非公開
会議次第	1 開 会 2 議 題 （1）応募事業者財務状況分析と資金計画分析について （2）第1次審査採点表集計結果について （3）第1次審査通過団体の決定について （4）第2次審査について （5）その他 3 閉 会
配付資料	【席上配布】 資料1 財務状況分析報告書 資料2 資金計画分析報告書 資料3 第1次審査結果表集計表 資料4 第2次審査スケジュール（案） 資料5 第2次審査票（参考） 資料6 第1回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会議事録 参考資料 第1次審査票（本人分のみ）
会議の結果及び主要な発言	
A委員 A委員 公認会計士	1 開会 ・開会の挨拶 2 議題 （1）応募事業者財務状況分析と資金計画分析について 公認会計士が報告書に基づき報告 財務状況分析（総合評価） A事業者： A-1社（可）、A-2社（可）、A-3社（可） B事業者： B-1社（可）、B-2社（可）、B-3社（可） C事業者： C-1社（可）、C-2社（可）、C-3社（可）

	<p>D事業者： 可 資金計画分析（総合評価） A事業者：A B事業者：B C事業者：A D事業者：A</p>
A委員	何かご意見、質問等はあるか。
F委員	3番で事業所税の説明があった。事業所税とは別に、公租公課があり、C事業者はそれがある。
公認会計士	今回の場合、公租公課は、事業所税と消費税が該当する。C事業者は、その他経費に消費税を入れている。B事業者は事業運営費に消費税を入れている。人件費相当の消費税だと思われる。事業所税については、別で、面積や職員数によってかかる。スポーツセンターは規模が大きいので、基本的には事業所税がかかる。
A委員	(2) 第1次審査採点表集計結果について
事務局	事務局から審査票集計結果を報告。 A事業者：1,059点 B事業者：1,044点、 C事業者：1,037点、 D事業者：945点
A委員	各委員より各事業者の講評を。
C委員	順位について異論はない。B事業者は、常勤の人員配置に不安がある。人員配置は大切。D事業者は、書類を見ている限り、具体的にどうするかの実体性に欠け不安が残る。A事業者は、東京2020大会の公式パートナー企業が構成団体になっているため、気運を盛り上げる意味では強いと思う。
B委員	A事業者は、現行の事業者だと思われるが、安心感がある。一方で、自主提案が他社と比べると内容が薄い。もう少し何かあったら良かった。B事業者は、安定感があるが、特色がない。同じ建物の中で指定管理を行っているが、具体的なシナジー効果ははっきりしなかった。二次審査で確認したい。月額利用料金制の提案があったが、施設が飽和状態の中で、どういう想定しているのか、確認が必要だと思った。C事業者は財団だと思うが、地域と密着したいろいろな提案がある半面、各社の業務の役割分担が明確ではなかった。財団がいかにリーダーシップを発揮できるかが重要になる。また、指定管理事業と区からの補助金事業の区別ができていないか提案書を見た限り分かり辛い。D事業者は、高めに採点したが、スポーツ推進計画をよく読み込み、資料を作っていることは伝わってくる。一方で、提案は弱い。実際に行うことが可能か気になる。
D委員	A事業者は、スイミング系。ビル管理は実績がある。実績をアピールした資料作りになっている。B事業者は、介護事業を約2,000件行っており、らくっちゃんの指定管理も行っている。C事業者は、公益性に着目している。ひとり親家庭への支援や、社会的な課題、放課後キッズなどの課題に取り組もうという意思を感じる。D事業者は、グランドフィットネスとボルダリングをやりたいという意思は伝わってきた。ここも介護事業を約2,000件行っている。スポーツ推進計画を読み込んで具体的だったのは、C事業者だった。各業者の得意分野を生かした事業を行いたいというのは分かるが、あまり前に出すぎるとバランスに欠けると感じた。

G 委員	D事業者は、提案の具体性が若干欠けていた。施設管理も自社でやれるのかが分からない。A事業者は、今までやっていて実績がある。東京2020大会のパートナー会社が構成団体というところは可能性がある。B事業者は、プールの安全管理は非常に大変なので、芝公園多目的運動場について、この金額で大丈夫か不安。提案自体は、全般的には及第点。C事業者は、トレーニングパークとプールの開設時間を延ばす提案をしている。ニーズにあった提案だと思うが、本当に実現できるのかなと思った。区の施策とは合っている提案が多い。
F 委員	4事業者は、それぞれ一定のレベルにある。どの事業者でも大丈夫だと感じた。A事業者は、全体的にバランスのとれた提案で、若干優勢と感じた。2020大会のゴールドパートナーが構成団体で、2020大会企画プログラムを実施している。具体的に何ができるかは二次審査で確認したい。B事業者は、全体的に現実的な提案。ボランティアの関係、ポート・サポーターズ・クラブの支援などを提案しているところがおもしろいと思ったが、職員の配置に不安がある。C事業者は、提案書が分かりやすく、具体的。障害者スポーツ、特に、アウトリーチ活動、障害者施設に出向いてスポーツを行う提案はなかなかおもしろい。D事業者は、簡潔な提案だが、やや説明不足。ボルダリング、行動分析システムはおもしろい。ラグビーのサンウルブズが協賛企業という記述があったが、具体的に何ができるのかの記述がないのがもったいない。1社だけですべて行うため、再委託がかなりあり不安。
A 委員	A事業者は、現事業者だから分かりやすい。要求されたことを書けている。B事業者は、実績があるからだと思うが、書き方にメリハリがあり、強いものを感じた。気になったのは、人件費。シルバー人材センターの経費がどこに計上されているか確認できない。C事業者は、事業の提案のインパクトが薄い。面白さを感じない印象。フルタイムスタッフを雇えるなら雇ってほしいが、非常勤の数が多いのが気になる。D事業者は、提案から港区に対する愛着を感じなかった。
事務局	講評を受けて、点数を修正したい委員は修正をしてほしい。 再集計し、集計結果を報告。 A事業者：1,059点 B事業者：1,042点、 C事業者：1,037点、 D事業者：958点
A 委員	(3) 第1次審査通過団体の決定について 応募事業者財務状況分析及び第1次審査採点表集計結果に基づき、第1位を「A事業者」、第2位を「B事業者」、第3位を「C事業者」、第4位を「D事業者」とする。 なお、今回の選考対象団体は4事業者。公募要項には、第一次審査通過者を3団体程度としている。したがって、上位3団体により、第2次審査を実施したいと思うが、いかがか。
A 委員 事務局	・全委員了承 (4) 第2次審査について ・事務局から説明
F 委員 事務局	第二審査のプレゼンテーションは、施設長候補が来るのか。 公募要項に、施設長候補によりプレゼンテーションを行うことを記載している。また、第二次審査は、すべての質問に答えられるように、共同事業体の構成団体から1名ずつ、合計4名以内で行っていただくことを考えている。
A 委員 事務局	・全委員了承 (5) その他 ・事務局から今後のスケジュールについて説明
	3 閉 会

第3回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会 記録

会議名	第3回港区立スポーツ施設指定管理者候補者選考委員会
開催日時	平成30年6月28日（木曜日）午前9時から正午まで
開催場所	港区役所7階教育委員会室
委員	小笠原委員長、新宮副委員長 秋吉委員、石黒委員、水上委員、関本委員、横尾委員
事務局	生涯学習スポーツ振興課 木下課長 " スポーツ振興係 加藤係長、大矢、石原
傍聴者	非公開
会議次第	1 開会 2 議題 （1）第二次審査の実施について （2）第二次審査採点表集計結果について （3）港区立スポーツ施設指定管理者候補者の決定について （4）その他 3 閉会
配付資料	【席上配布】 資料1 タイムスケジュール 資料2 第二次審査票 資料3 第一次審査結果表集計表 資料4 第一次・第二次審査集計表（集計後配布）
会議の結果及び主要な発言	
A委員	1 開会 ・開会の挨拶
A委員	2 議題
事務局	（1）第二次審査の実施について ・事務局からスケジュールを説明
A事業者	・プレゼンテーション（10分） ・質疑応答（20分程度）
D委員 A事業者	芝浦南ふ頭公園運動広場は無人施設だが、昨年度より経費が増えているのはなぜか。現在再委託をしている業者に、次年度からも再委託をする。昨年度実績とのかい離については、過去4年間金額を見直さず、現事業者の好意により金額を維持してきた。しかし、昨今の最低賃金の上昇等の社会的な情勢を踏まえて、再委託先の業者にヒアリングを行い、この経費を計上するに至った。不法侵入対策、AEDの貸出等は、今までと同じように行っていきたい。
D委員	運動場の植栽の管理経費は、昨年度に比べると、相当下がっているが問題ないのか。

A事業者	前年度と同様の業者を再委託先とする。再委託先業者とヒアリングを重ね、この金額で問題ないと考えている。植栽に関しては、提案書に具体的に記載したので、こちらも参照してほしい。
A委員	今のプレゼンテーションで「する」スポーツ②（高齢者、障害者の事業）について。定期練習会のリノベーションとは具体的には何をするのか。
A事業者	現状は、子供が対象なものや大人が対象なものに分かれている。障害者も利用しているが、使い辛い部分があるので、少し手を加えて、障害のある人もない人も使いやすい定期練習会を作っていきたいという提案。
A委員	具体的なプログラムはあるか。
A事業者	使いやすい環境を作りたい。氷川武道場や愛宕弓道場の入りづらい雰囲気など、ソフト面で使いやすくしたい。
A委員	ハードも含めたリノベーションになるのか。具体的にはないのか。
A事業者	ソフトも含めたリノベーションと考えている。具体的には今のところない。
A委員	「知る」スポーツでは、情報発信が重要であるとあるが、どういうことを考えているか。
A事業者	知る情報を港区で見ると、広報誌が40%、キスポーツ誌15%になっている。その他は、SNS、ツイッター、フェイスブックに流れている。こうした傾向から、SNSを活用した情報発信、たとえばスポーツ教室等の講師の有名人から発信してもらうなどを行っていきたい。ウォークラリーアプリなども使い、スポーツ施設をアプリに入れ、観光地も入れ、お互いにPRをしていきたい。
F委員	2020大会で、アリーナが約80日使えなくなる可能性がある。苦情等が発生した場合、指定管理者としてはどのように対応するか。
A事業者	これまで4年間、スポーツセンターを管理していた。体育協会をはじめ、社会体育団体が50団体くらいあるが、日常的にスポーツセンターを使っている。今までの信頼関係により、しっかりご説明をし、ご理解をいただく。また、競技場が3つ、武道場が2つ、多目的室があるので、利用者間で調整をし、できるだけ苦情にならないようにしていきたい。近隣の学校施設にも、利用できるかどうかを相談していきたい。
F委員	他の事業者にはできないゴールドパートナーだからこそできる取組はあるのか。
A事業者	2020大会のエンブレムを使える公認プログラムをできる権利を持っている。契約選手であるオリンピック・パラリンピアンを招いたイベントや独自のキッズスポーツチャレンジといったプログラムを活用し、区民に楽しんでもらえるようなイベントを開催したい。スポーツ用品部門でのゴールドパートナーになっているので、館内に公式ウェアの展示等を行い、区民が身近にオリンピック・パラリンピックを感じてもらえるような仕組みを考えていきたい。
C委員	そもそも、なぜこのスポーツ施設の指定管理者に立候補したのか。
A事業者	港区スポーツセンターは、23区の中で一番大きな施設であり、注目されている施設。他にも運動場等のスポーツ施設があるので、まとめて指定管理を行いたいと思った。
C委員	レガシーについてはどう考えているか。指定管理1年目にラグビー、2年目に2020大会、その後3年間は2020大会後になる。

A事業者	一つ目として、横断幕を作って、区民に応援メッセージを書いていただき、選手に渡し、現地で使ってもらおう。その後、スポーツセンターに展示し、思い出を継承していきたい。二つ目として、オリンピックを見ると、運動をしたい気持ちになると思う。そのとき、定期練習会に参加いただき、継承していく。三つ目として、弊社の契約選手に、オリンピック・パラリンピック選手がいるので、2020大会後にスポーツセンターに来ていただき、経験談を語ってもらったり、練習会等で触れ合ってもらっていただく。子供たちに、将来オリンピック・パラリンピックに出たい気持ちを感じていただく。四つ目として、オリンピック・パラリンピック選手のメダル、シューズ、ウェアを定期的に展示し、大会で活躍した選手を思い出していただく。五つ目として、選手に施設を練習会場として使ってもらっていただき、子供たちに見学の機会を与え、その競技についても興味を持ってもらいたいと考えている。
B委員	実利用者数を増やす取組みについて。時間帯によっては、かなり飽和状態だと思うが、具体的な取組みはあるのか。
A事業者	民間のスポーツクラブを運営していて、常に戦略分析を行っている。スポーツセンターは、子育て世代やアクティブシニアが多いことが分かってきたので、ベビースイミング、親子体操、子供の水泳を行い、子供を学校等に預けている時間に、ヨガ、太極拳、ピラティスを子育て世代に行い、アクティブシニアの方は、介護予防事業、トリアス体操を行っていきたい。利用者の安心・安全が一番、快適さが二番、満足度を上げながら少しずつ利用者数を増加させたい。
B委員	新しい事業を始めると、団体貸し等の利用枠が狭まるが、それはどうするか。
A事業者	狭まらないように、利用者数の少ない枠を転換していきたい。
B事業者	・プレゼンテーション（10分） ・質疑応答（20分程度）
A委員	スポーツセンターの常勤職員の配置について。正規で6名、非正規常勤6名になっているが、これで本当に回るのか。非現実的に感じる。
B事業者	12名、そのうちの6名が代表団体の社員、6名が非正規だが、契約社員を検討している。6人の正社員の内訳は、施設長、スポーツセンターの責任者、受付関連の責任者、プールの責任者、トレーニングパークの責任者となっている。その下に契約社員を配置する予定。
A委員	非常勤が60名で多い。スポーツセンターは人気だが、プログラムを増やした分の従業員の配置等は考えているか。
B事業者	スポーツセンターは、フリーのインストラクターがレッスンをするので問題ない。このインストラクターは人員には計上していないので、プラスアルファとなる。
A委員	シルバー人材センターの経費は計上されているか。
B事業者	シルバー人材センターと話しており、委託料として計上している。統括責任者、責任者が定期巡回して、うまく業務を行うことができているかを監督し、OJTを行っていく。こうした職員の按分費用は入っていないが、指摘があれば、按分して入れていきたい。
D委員	麻布運動場の経費について、見積りがかなり低予算になっている。植栽管理についても、予算が低い。芝浦中央公園も低予算になっている。
B事業者	植栽管理については、業者とやり取りして、仕様書に基づいて費用を算出している。現状の見積りは分からないので、仕様書で漏れている部分があれば、選定いただいた際は区と協議をしたいと思います。基本は仕様書に基づいて見積りをしている。
D委員	屋外運動場は、本社からスペシャリストを呼ぶとあるが、どういう人か。
B事業者	本社の法務やリスクの部署が、植栽管理の維持管理をする際に、巡回やチェックを行う。
D委員	プレゼンからいいと思ったのは、介護事業の利用者を誘導して連携を図ること。連携を図れる人材なのか、単なる施設の維持管理を行う人だとスペシャリストとは言わない。相互の連携を図れる人材か。

B 事業者	ソフト品質管理の運営を本社から行っていきたい。
B 委員	利用者数の見込みについてはどう算出したか。
B 事業者	28年度の実績から算出し、4.5%増と、その後を毎年1%増としている。
B 委員	オリンピック・パラリンピックの公式練習会場になると、休止期間中、利用者が減ると思うが、そのあたりはどうか。
B 事業者	公式練習会場になった場合のことは、反映させていない。区と協議して考えていく。
B 委員	月額利用料金制を提案しているが、スポーツセンターは飽和状態だが、大丈夫か。
B 事業者	可能と考えている。スポーツセンターは、リピーターが多く、月額利用料金制を導入した方が利用者の利便性が高まる。トレーニングパークのリニューアルなどにより、利用者の待ち時間を減らし、空きスペースでのグループレッスン、パーソナルレッスンを導入していく。
F 委員	公式練習会場になると、アリーナで約80日間使用できなくなるが、その際の利用者への対応、クレーム等への対応をどのように考えているか。
B 事業者	区と協議しながら対応していく。利用者に向け、区外の運動施設、民間の運動施設を案内していく。
F 委員	運動場は、非正規社員が多いが、苦情等の対応をどう考えているか。
B 事業者	リーダー制度を導入しており、クレーム等に対しても問題なく対応できるようにしていく。
C 事業者	・プレゼンテーション（10分） ・質疑応答（20分程度）
A 委員	環境対策について、どのようなことを行っていくのか。
C 事業者	プールの水温を保つために、保温シートを敷いたり、エアコンの温度を調整したりというところを地道に行っていきたい。また、空調スイッチのオン・オフなどISO14001・9001に基づいた活動を行っていく。
A 委員	情報発信の方法は、どういうことを考えているか。
C 事業者	港区スポーツ推進計画に基づき、「知る」を強化していく。若い世代に対しては、ホームページやSNSで発信し、高齢者に対しては、チラシ、リーフレット等で発信していく。また、広報誌を利用し、地域の活動としてPRしていきたい。スポーツセンター内にデジタルサイネージを設置することも考えている。また、財団の広報誌（15万部）を活用していく。
C 委員	利用時間の延長は、実現できるのか。
C 事業者	複合施設であるため、十分協議が必要だと考えているが、区と調整していきたい。
C 委員	職員体制については、有資格者を何人配置することを予定しているか。
C 事業者	上級体育管理士やプールの資格を持つ職員を配置する予定。それぞれ業務ごとに必要と思われる資格を職員26人が有し、管理運営を行っていきたい。
D 委員	イベントは運動場では行わないのか。
C 事業者	運動場でも行う。本部機能をスポーツセンターに置くため、スポーツセンターの経費の中に、運動場の分も一括で計上している。
D 委員	たとえば、ラグビー観戦は、費用がかなりかかると思われるが、経費の中で行えるのか。
C 事業者	著名人のイベントの場合、1回100万円程度必要になる。参加費を徴収することもできるので、可能だと考えている。また、規模は小さくなくても、スポーツ教室も定期的に行っていきたい。ラグビーについては、子ども向けのラグビー教室を既に行っている。また、秩父宮ラグビー祭りにも協力している。
B 委員	代表団体は具体的に何をするのか。職員をスポーツ施設に配置しないのか。
C 事業者	代表団体から3人は専属で配置予定。
B 委員	オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップの公式練習会場の予定がある中、利用時間の延長ができるかに関係してくると思うが、利用者数を実際に増やすことができるのか。

C 事業者	利用時間を延長できれば、働き世代の利用者が増える。利用時間の延長ができなくても、障害者向けの事業、託児付きの教室、放課後キッズなどの事業を行い、利用者増を目指すので、問題ないと考えている。公の施設はリピーターも多く、5年間、スポーツ振興の事業を実施した経験を生かし、利用者数を徐々に増やしていく。
B 委員	利用時間の延長ができなければ、収支にも影響してくるのではないかと。
C 事業者	利用時間の延長が不可となった場合でも、人を呼ぶ提案をしていく。
委員	今回提案の事業は、区からの補助金事業ではないか。
C 事業者	別のものになる。
F 委員	障害者・高齢者・子どもに対するスポーツ推進について、アウトリーチ活動が良い提案だと思った。
D 委員	シルバー人材センターに数施設委託する予定だと思うが、管理はどのように考えているか。
C 事業者	シルバー人材センターへの委託は、現行と同施設において考えている。任せきりにするのではなく、職員が巡回を行い、監督をしていく。
事務局	・第二次審査票の集計
A 委員	(2) 第二次審査採点表集計結果について
事務局	事務局から審査票集計結果を報告。
	・第二次審査集計結果
	A事業者：607点、B事業者：447点、 C事業者：526点
	・第一次・第二次合計集計結果
	A事業者：1,666点、 B事業者：1,489点、 C事業者：1,563点
A 委員	各委員より各事業者の講評を。
C 委員	A事業者は、新規事業の提案やゴールドパートナーの活用などオリンピック・パラリンピックの気運醸成プログラムが充実していると感じた。スポーツ推進計画にのっとった計画であったが、創意工夫の点で物足りなさを感じた。B事業者は、人員配置、経費面での不安がある。また、アスリートの活用など魅力的なプログラムはあったが、その実現性に不安がある。現状を把握していない。C事業者：有資格者が少ないことと利用時間の延長の有無が確定していないことから、安定的な実施につながるか疑問が残る。区の事業との線引きが曖昧である。
B 委員	A事業者は、現行の事業者であるため、安定感があり、具体的に考えていると感じた。B事業者は、現状の課題を理解しているのか不安がある。C事業者は、魅力的な企画・提案もあったが、具体的にできるのか不安。
D 委員	A事業者は、気運醸成事業の工夫がある。スタッフの研修機会が不安。質疑は、4年間の実績がある分、役割分担して答えていた。B事業者は、スタッフの人員確保に不安。具体的な事業提案についても不安が残る。C事業者は、経費に不安。イベントがラグビー事業に偏りがあるように思う。他の事業者と比べ、社会的部分の考えも一番持っている。
G 委員	A事業者は、現行事業者であるが、きちんとやっているという印象。安心度が高い。B事業者は、人員配置への不安がある。C事業者は、いい提案だと思ったが、実際に行うことができるのかは不安。
E 委員	A事業者は、実績がある。利用者や関係団体との信頼関係を築いているように感じる。ゴールドパートナーとしての強みもある。B事業者は、介護事業者との連携が良いと思った。人員配置は、非常勤に偏りがあり不安。施設休止期間についても、対応への不安が残った。C事業者は、具体性や実現性が乏しく、不安がある。

F 委員	A事業者は、安定感と実現性があった。ゴールドパートナーとしての強みもある。質疑で回答に詰まったとき、他の構成団体からフォローがあり、共同事業体として関係性がしっかりできているように感じた。B事業者は、人員配置に不安がある。C事業者は、障害者スポーツでのアウトリーチ活動はいいと思ったが、質疑の答えが曖昧な部分があった。
A 委員	A事業者は、現実をとらえている。一方で、現行業者だからか新しい提案に欠ける。質疑の回答にも、曖昧さが残る。B事業者は、人員配置に民間施設を応用してしまったように思う。人件費を抑えており不本意に思うかもしれないが、この人員配置は、公の施設には適用しない方がいいと思う。C事業者は、一番聞きやすいプレゼンだった。具体的に質問をしたときに答えられておらず、実現性が低いように感じた。
A 委員	(3) 港区立スポーツ施設指定管理者候補者の決定について 講評を受けて、点数を修正したい委員はいるか。
A 委員	・修正なし 集計の結果、港区立スポーツ施設指定管理者候補者は、A事業者に決定した。よろしいか。
事務局	・全委員了承 (4) その他 ・事務局から今後のスケジュールについて説明
	3 閉 会